

大阪ろうさい クロニクル

第18号

発行日
2026.10.1

血管撮影装置が更新されます

脳神経外科部長 後 藤 哲



平素より大阪ろうさい病院の診療に格別のご高配を賜り、心より感謝申し上げます。

脳神経外科領域の治療は「脳血管内治療」の進歩により大きく変貌しました。低侵襲な治療として、脳動脈瘤コイル塞栓術や頸動脈ステント留置術に加え、フローダイバーター治療、硬膜動静脈瘻や脳動静脈奇形への血管塞栓術など高度な手技が普及しています。今年から保険適応となった再発慢性硬膜下血腫への血管塞栓術など適応疾患も拡大し、今や不可欠な標準の治療です。

多様化・高度化する治療ニーズに安全かつ迅速に応えるため、当院ではSiemens社製のバイプレーン血管造影装置「ARTIS icono D-spin」を導入し、2026年10月19日より稼働いたします。

新装置は「高画質と低被ばくの両立」「安全で正確な手技の実現」が最大のメリットです。最新の画像処理技術により被ばく線量を低減しつつ微細な血管を高精細に描出し、新たな3D撮影機構により画像の乱れが生じやすかった頭蓋底などの部位もクリアに確認可能となります。

さらに、優れたメモリー機能によるベッド位置の自動移動で、術中の再造影撮影が不要となります。これにより造影剤使用量の低減、治療時間の短縮、安全性の向上、術者の負担軽減につながります。加えて、進化を続ける最新デバイスの性能を最大限に引き出し、今後のさらなる治療技術の発展にも対応可能です。これらにより困難な病変でも合併症リスクを最小限に抑え、治療成績の向上が期待できます。

最新機器を活用して質の高い治療を提供できるよう精進するとともに、地域の皆さまにより一層信頼されるよう目指してまいります。引き続きご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

脳血管内治療件数

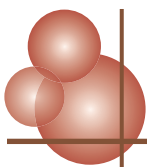
		2023年	2024年	2025年
動脈瘤塞栓術	破裂動脈瘤	2	4	6
	未破裂動脈瘤	7	7	3
動静脈奇形	脳	—	—	5
	脊 髄	—	—	1
閉塞性脳血管障害 (上記の内ステント使用例)		28 (12)	27 (12)	20 (11)
その他		8	9	9
合 計		45	47	44

基本理念

誠実で質の高い医療を行い、
すべての方々から選ばれる病院に

基本方針

1. 地域と連携し地域に信頼される急性期医療を行います
2. 高度で安全な医療に全力をあげてとりくみます
3. 患者さまの立場と権利を尊重する医療に努めます
4. 勤労者医療を担ってこれを推進します
5. 働きがいのある職場づくりを推進します



診療科紹介 眼科

充実した専門スタッフによる緊急症例への即応体制

副院長／眼科部長 **えみかず ゆき 恵 美 和 幸**



当科は、新専門医制度における基幹施設に指定されており、専門医12名による強固なチーム医療体制のもと、年間6,000件を超える全国でもトップクラスの手術実績を維持しています。特に網膜硝子体手術は年間1,283件(2025年)で、全国上位に位置しております。(5月17日付：読売新聞「病院の実力 目の病気」全国版)

外来は予約外初診も受け入れており、手術は月曜日から金曜日まで毎日行っております。なかでも網膜剥離や眼外傷、急性緑内障発作といった緊急疾患に対しては、当日あるいは翌日の緊急入院・即日手術を行う迅速な受け入れ体制を整えています。近年の当科の手術の特徴としては、重症な糖尿病網膜症が減少し、網膜剥離や眼内レンズ脱臼の手術件数が増加しております。また、緑内障手術の依頼件数も増加傾向にあります。多くの手術を手掛ける中においても、術前抗菌点眼および術中ヨード点眼の徹底などの感染対策を講じることで、この1年間において院内発症の眼内炎0件を維持しております。

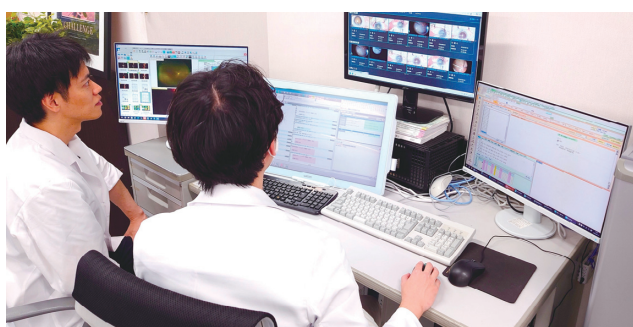
先進的なデジタル環境と教育への取り組み

眼科は、文字情報よりも画像情報が重要な診療科で、外来や手術室などに最新のデジタル機器が必要不可欠です。先日最新の医療IT環境としてCarina®システムを更新いたしました。このシステムは過去の手術における全ての動画データをサーバー上で即座に確認・検証できるシームレスな環境が構築でき、当科全体の執刀技術の向上や若手医師への教育に大きく寄与しているだけでなく、学会発表における貴重なデータ分析や学術的発信の場でも高い有用性を発揮しています。新病院となりましたが、その他の眼科機器は導入からすでに15年以上経過してきており、更新が必要な時期に来ています。

地域の先生方から安心して症例をお任せいただけるよう、今後も最先端の知見と設備を取り入れながら、地域の医療ニーズに確実に応えられるよう診療体制を維持し、診療連携を強化してまいりたいと思っております。今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



眼科スタッフ



カンファレンス



Carina® システム 端末

診療科紹介 循環器内科

地域とともに、24時間365日支える循環器診療

循環器内科部長 江 がみ やす ゆき
神 康 之



20名体制

特任院長＋循環器内科医19名

循環器専門医 9 名

複数の専門チームで対応

24時間365日

ハートコールで直接連携

秋涼の候、先生方におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より当院循環器内科の診療に格別のご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

当科は現在、西野特任院長と循環器内科医19名の計20名で診療にあたっています。江神・矢野部長、松永・岡本副部長を中心に、循環器専門医9名を含む各分野の専門スタッフが、虚血性心疾患、末梢動脈疾患、不整脈、心臓弁膜症、心不全、肺血栓塞栓症など、幅広い循環器疾患に対応しています。冠動脈・末梢血管インターベンション、不整脈アブレーション、ペースメーカーや植込型除細動器(ICD)、心臓再同期療法(CRT)、経皮的カテーテル的大動脈弁留置術(TAVI)、経皮的僧帽弁接合不全修復術(M-TEER)、経皮的左心耳閉鎖術(WATCHMAN)など、内科治療から高度なカテーテル治療までを1つの診療科で完結できる総合力が当科の強みです。

循環器専門医を配置した複数のチームが、急性心筋梗塞、急性心不全、重症不整脈をはじめとする循環器救急に24時間365日対応しています。さらに、救急隊および地域のかかりつけ医の先生方から当科へ直接ご連絡いただける「ハートコール」を運用し、相談、受け入れ、治療開始までを迅速につなげています。胸痛、息切れ、動悸、失神など、緊急性の判断に迷う症例も遠慮なくご相談ください。治療後は速やかに診療情報を共有し、地域での継続診療へつなげます。

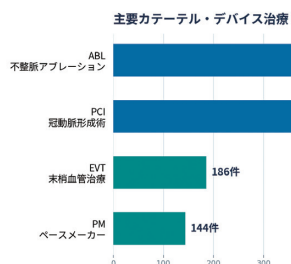
2025年も大阪府内有数の治療実績を積み重ねるとともに、臨床研究にも力を注ぎ、英語論文として臨床研究20編、症例報告7編を発信しました。日々の診療から得られた知見を患者さまと地域医療へ還元し、「堺から世界へ」を合言葉に、診療と研究の両面から循環器医療の発展に貢献してまいります。今後も「紹介してよかった、相談してよかった」と思っただけの診療科を目指します。引き続きご指導、ご支援のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

2025年 診療・研究実績

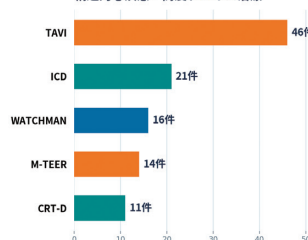
地域医療を支える症例数と、世界へ向けた研究発信

2025年 循環器内科 治療実績

高度急性期から専門的カテーテル治療まで、幅広く対応



構造的心疾患・高度デバイス治療



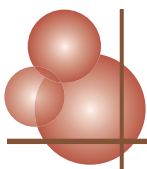
2025年 英語論文掲載数

臨床研究 20編

症例報告 7編



循環器内科スタッフ



診療科紹介 救 急 科

救急科部長 し みず けん た ろう
清 水 健 太 郎

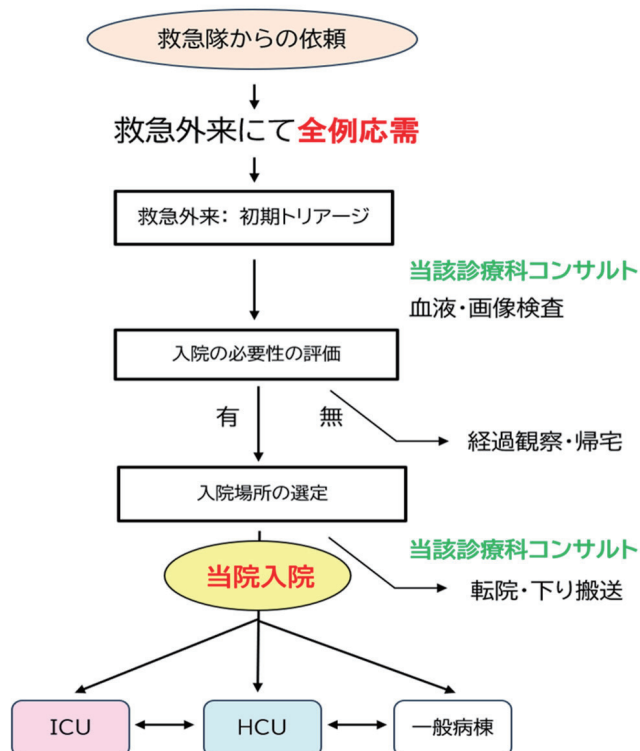


令和8年4月より救急科に着任しました清水健太郎と申します。どうぞよろしくお願いします。私は、大阪大学の第一内科、消化器内科で研修をはじめ、2003年より救急医学教室に所属して3次救急医療に従事してまいりました。途中、医療安全や米国留学を経て、救急・集中治療の基礎および臨床研究にも従事してまいりました。

日本の救急医療体制は、1960年代に大阪からはじまりました。当時は交通戦争と呼ばれる多発外傷患者に対して、たらいまわしが社会問題となっていました。緊急度および重症度の高い患者を搬送する場所を大阪府が大阪大学につくったのがはじまりとされており、NHKのプロジェクトXでも紹介されました。その後、全国に約300か所の救命救急センターが設置され、社会インフラとして認知されるに至っています。日本は、救急隊がトリアージを行って病院選定を行う、他国にない独自のシステムを取っております。地域ごとに定期的なメディカルコントロール会議などで、病院ごとの応需する疾患などを決めるなど救急搬送の精度を高め現在に至っております。

大阪ろうさい病院は、本年7月より急性期医療をより進めていくために、平日日勤帯のみ「全例応需体制」となりました。当院は、各専門家のサポート体制が手厚く、例えば、転倒による頭部外傷に対しても、脳神経外科、形成外科、眼科、耳鼻咽喉科、循環器内科など多診療科の先生方の連携のもと、救急であっても、より適切な診療を受けられる体制であります。また、今後、85歳以上の方が救急搬送の半数を占める中、救命だけでなく、ご本人やご家族の生活の変化に寄り添える医療を目指して、各診療科、看護師、メディカルサポートをはじめ、各部署との協力体制が重要だと考えております。地域の医療機関とも連携を密にして地域の救急医療に少しでも貢献できるように努力してまいります。今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

救急患者の全例応需体制（平日日勤帯）



診療科紹介 健康診断部

人間ドックを地域の健康管理とクリニックでの
継続診療につなげるために。

健康診断部部长 辻 真由美



当院では、地域の皆さまの健康維持・疾病予防、そして病気の早期発見を目的として人間ドックを実施しています。人間ドックは現在の健康状態を総合的に確認するだけでなく、まだ症状として現れていない病気や、将来的に発症する可能性のある生活習慣病などを早期に発見する大切な機会です。

特に、日頃かかりつけのクリニックに定期通院されている患者さまの中には、お薬の処方を中心に受診され、血液検査などの検査をしばらく受けていない方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

そのような患者さまにも、是非一度、人間ドックの受診をご案内いただければと思います。

自覚症状がなくても、検査を受ける事で、高血圧、糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病やその他の慢性疾患が見つかる可能性があります。早期に異常を発見し、必要に応じてかかりつけのクリニックで治療や生活習慣の改善を開始する事は、将来的な重症化予防につながる事が期待されます。

当院の人間ドックでは、基本的な検査項目に加え、多彩なオプション検査もご用意しており、現在通院中の病気の合併症検索にもご利用いただけます。

人間ドックを「病気を見つけるため検査」だけでなく、「今後も安心してかかりつけのクリニックと健康管理を続けていくためのきっかけ」として、ご活用いただければと思います。

患者さまの健康を守り、早期発見・早期治療につなげるためにも、また、かかりつけのクリニックでの継続的な診療・健康管理につなげていただくためにも、是非定期通院されている患者さまへ人間ドックをご紹介しますと幸いです。

かかりつけのクリニックと連携し、患者さまの健康を長期的に支えていけるよう、今後も取り組んでまいります。

人間ドックコース(1例)

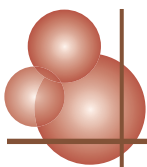
コース名	男性	女性
一般コース	49,900円	
一般コース(上部消化管検査なし)	36,700円	
堺市国民健康保険被保険者コース	12,210円	12,510円～

オプション検査(1例)

オプション検査名	料金	オプション検査名	料金
子宮頸部細胞診	4,600円	甲状腺超音波	3,400円
乳腺超音波	3,400円	甲状腺機能(TSH・FT3・FT4)	3,400円
マンモグラフィー	5,400円	頭部MRI・MRA	25,500円
肺CT	14,000円	頸動脈超音波	3,400円
心臓超音波	8,400円	骨密度(レントゲン)	4,300円

※2026年10月現在

※料金は全て税込み



部門紹介 臨床工学室

主任臨床工学技士 ひら い やす ひろ
平 井 康 裕



大阪ろうさい病院臨床工学室は、14名の臨床工学技士が人工透析室、手術室、心臓カテーテル室などで業務を行っています。また、MEセンターでは3名の外注職員が医療機器の管理及び保守点検を行っています。今回は、それらの業務の中から血液浄化業務についてお話ししたいと思います。

当院での血液浄化業務は、まず人工透析室での業務があります。人工透析室では臨床業務、機器管理業務、水質管理業務などがあります。

①臨床業務：血液透析施行時のプライミング、穿刺、開始、回収、トラブル対応などを行います。また、自己免疫疾患や肝不全などで行う血漿交換療法や血漿吸着療法(アフェレシス療法)も業務のひとつです。近年では、重症下肢虚血に対する血液吸着療法や難治性腹水に対する腹水濾過濃縮再静注療法も増加傾向にあります。

②機器管理業務：生命維持管理装置である透析装置が安全に使用できるように日常点検・定期点検や機器の修理を行っています。

③水質管理業務：1回の治療で1人120L以上の透析液を使用するため、日々の水質確認、定期的な細菌検査やエンドトキシンの測定を行っています。

次に集中治療室での業務があります。集中治療室では、重症患者さまが入室されていますので、臨床工学技士が出張し、血液透析や持続血液透析濾過などの急性血液浄化療法を行っています。新病院になり、ICUやHCUの病床数が増床されたこともあり、血液浄化療法が必要な重症患者さまも増加しています。

また、血液浄化関連の資格として専門血液浄化臨床工学技士、アフェレシス学会認定技士がそれぞれ2名在籍しており、自分たちのスキル向上に努めています。

最後に大規模災害発生時、大阪透析医会が主体となり、各透析施設の被災状況や透析困難患者数などを迅速に収集して、一覧化や地図上で可視化し、患者さまの受け入れや物資調整を支援する「緊急時透析情報共有マッピングシステム」の運用がこの夏から始まりましたので、透析患者さまの対応を効率的に行う事が可能になると考えています。



人工透析室



血液透析



持続血液透析濾過

部門紹介 看護部

RRSの活動紹介

HCU看護師長 みやがわ えりな 宮川 絵里奈



大阪ろうさい病院では、入院患者さまの予期せぬ心停止や重篤な状態悪化を防ぐことを目的としてRapid Response System(RRS：院内迅速対応システム)を運用しています。RRSは、患者さまの状態悪化を早期に察知し、多職種で構成されるRapid Response Team(RRT：院内迅速対応チーム)が迅速に介入することで、重症化の予防や安全な医療の提供を目指す重要な院内システムです。

バイタルサインを点数化し、明確なRRT起動基準を設け、病棟からのRRT要請を受けるとRRTメンバーの看護師が、患者さまの全身状態を迅速に評価します。次にRRTメンバーの医師と連携しながら、必要な初期治療や検査、ICU・HCUへの入室調整、主治医への情報提供を行います。

RRSの質向上のためには、システムを運用するだけでなく、院内全体への教育・啓発活動も重要となります。当院では、医師や看護師を対象とした院内研修を定期的に行い、RRSの起動基準や初期対応、急変時のチーム連携について学ぶ機会を設けています。研修を通じて、病棟スタッフがRRSの基準を躊躇なく起動できる環境づくりを進めることで、早期介入につながる文化の醸成に取り組んでいます。

さらに、予期せぬ心停止に至った症例に対してカンファレンスを開催し、活動実績の分析や起動基準・運用方法の改善を図っています。症例検討を通じて、院内急変の要因や課題を共有し、医療安全の向上に繋げることも重要な活動の1つです。このような取り組みに加え、今年度からは新たに早期警告スコア一覧モニター(RRSモニタ)というシステムを導入しました。これは測定したバイタルサインと連動し、RRS起動基準に基づいて高リスク患者さまをリアルタイムに確認できるシステムです。このシステムによって病棟と連携しながら、ハイリスク患者さまを見逃さず患者さまの状態悪化を早期に察知し、重症化の予防や迅速な対応を目指しています。

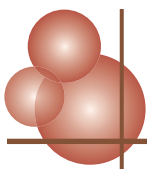
今後もRRSを通じて多職種が協働しながら患者さまの安全や質向上に努めていきます。また、教育・啓蒙活動と継続的なシステム改善を推進し、院内全体で患者さまの状態悪化に迅速かつ適切に対応できる体制の強化に努めていきます。



RRT活動



RRTメンバー



部門紹介 看護部

医療安全活動の紹介

医療安全管理者 くに かね れい な



平素より医療安全の活動にご協力いただき、誠に感謝しております。

今年度より、医療安全管理者として、当院の医療安全活動を推進しております。当院理念である「誠実で質の高い医療を行い、すべての方々から選ばれる病院に」を支えるため、日々の診療・ケアを安全に提供できる体制づくりに取り組んでいます。

当院では、医療安全管理室のメンバーで構成するチームが中心となり、組織横断的に安全対策を推進しています。医療安全管理室は、医療安全総括管理者・医療安全管理者・医療安全委員会副委員長・医薬品安全管理責任者・医療機器安全管理責任者・医師・看護師・事務局次長・医事課長で構成され、各部門の医療安全責任者と連携しながら活動しています。その活動は、日々報告されるインシデントやアクシデントについて、当事者への聞き取りや現場確認を行い、発生要因を分析しています。

その結果をもとに改善策や再発防止策を検討し、必要に応じて緊急対策会議を開催するなど安全確保に取り組んでいます。そして、毎月の医療安全委員会で共有し、各部署で同じ視点を持ち安全対策が行えるよう取り組んでいます。

週1回開催している医療安全カンファレンスでは、アクシデント事例の共有に加え、お亡くなりになられた症例の検討も行っています。治療やケアの過程に問題がなかったか、行うべき医療やケアが適切に提供されていたかを振り返り、今後の医療の質向上や再発防止につなげることを目的としています。この検証の過程で改めて実感するのが、カルテ記載の重要性です。事実が正確に記録されていることで状況の把握が可能となり、原因分析や再発防止策につながります。カルテは「治療やケアの記録」であると同時に、「患者さまの安全を守るための証拠」でもあります。現場の皆さまには、出来事の実事を丁寧に記録していただくことを、改めてお願い申し上げます。

医療安全は、患者さまと職員の安心を支える取り組みです。これからも安全文化を育み、誠実で質の高い医療の提供につなげてまいります。



医療安全カンファレンス集合写真

独立行政法人
労働者健康安全機構 **大阪ろうさい病院**
日本医療機能評価機構認定病院
地域がん診療連携拠点病院
地域医療支援病院

〒591-8025
大阪府堺市北区長曾根町1179-3
TEL 072-252-3561(代表)
072-255-8076(メディカルサポートセンター)
FAX 072-255-8203(メディカルサポートセンター)
<https://www.osakah.johas.go.jp/>



(病院HP)